

小児からの臓器提供に関する作業班について

1. 経緯

- 平成 28 年 6 月 29 日に開催された第 44 回厚生科学審議会疾病対策部会臓器移植委員会において、「最近の臓器移植の実施状況等について」の検討がなされた際、小児からの臓器提供者数は、移植希望待機者数と比べて少ない状況であり、小児からの臓器提供が進まない現状にあること等について議論された。その結果、小児における臓器提供の現状把握と、その課題や解決策を考えるために、作業班をもうけることが提案された。
- 平成 29 年 2 月 24 日に、第 1 回小児からの臓器提供に関する作業班が開催された。

2. 第 1 回会合の概要

- 第 1 回作業班では、普及啓発、臓器提供施設の体制整備、虐待への対応についての現状と課題について議論された。

(1) 普及啓発

<現状>

全国の中学校 3 年生向けパンフレットの配布、運転免許証や健康保険証裏面への意思表示の記載等を行っている。

<意見例>

- ・ 小児は、免許証や保険証は持っていない。教育現場で移植や死についての授業を行い、自宅で家族と話すような機会を設けられるような普及・啓発方法を考えるべきではないか
- ・ 小児循環器学会では、命の授業というプログラムを作成したが、学校側の受け入れが進まないのが現状。命の授業を普及させるツールについても考えるべきではないか

(2) 臓器提供施設の体制整備について

<現状>

(公社) 日本臓器移植ネットワークを通じた体制整備事業を実施している。

<意見例>

- ・ 日本小児総合医療協議会の会員施設は 33 あるが、その中からの臓器提供は、わずか 1 例のみに留まっている。小児からの臓器提供を進めるためには、小児医療が整備されているべきこれらの施設からの臓器提供が進まないという現状を踏まえる必要があると考えるが、このことについて原因の分析と対策が必要ではないか。
- ・ 家族が提供の意思を示したにもかかわらず、院内体制整備が出来ていないという理由で、その意思を反映出来ないのは問題である。当該施設だけではなく、外部からの支援の方法も議論すべきではないか。

(3) 虐待への対応について

<現状>

虐待児童の臓器提供については、臓器提供施設マニュアルで除外方法や院内体制整備をマニュアル化し、また、臓器提供に係る質疑応答集にて周知を図ってきた。

<意見例>

- ・ 現場で活用できる、虐待該当のチェックリストを作成してはどうか。
- ・ 虐待防止委員会の実態について精査し、その機能を確認した上で設置されていない施設に対しては、作業班を通じて設置を働きかけることはできないか。

3. 今後の作業班での議論内容について

○ 次回の作業班では、下記の先生方にヒアリングを行う予定。

- ・ トキワ松学園中学校 佐藤毅（中学 3 年生向けのパンフレットを実際に活用し、授業を行っている東京都教諭）
- ・ 東京大学 水口雅（日本小児神経学会理事）
- ・ 埼玉医大総合医療センター 荒木尚
（日本小児救急医学会脳死問題検討委員会委員長）
- ・ 富山大学 種市尋宙（小児提供事例を経験した医師）
その後、今後の普及・啓発活動に繋げるための課題、提供に至らない原因分析と対策について議論する予定。